

能登半島地震・被災者支援プログラムの報告（第 25 回）

作成：TVAC/CS-Tokyo

■日程：2024 年 11 月 21 日（木）～11 月 23 日（土）

■ボランティア参加者数：10 名

■サロンの実施場所および被災者の参加者数

日時	サロン実施場所	被災者の参加人数
11 月 21 日（木）	穴水町甲地区兜公民館	19 名
	穴水町諸橋地区諸橋仮設団地	13 名
	穴水町中居地区住吉公民館	14 名
	輪島市町野地区金蔵集会所	16 名
11 月 22 日（金）	輪島市門前地区禅の里交流館	28 名
	輪島市門前地区皆月集会所	18 名
	穴水町志ヶ浦地区志ヶ浦コミュニティセンター	19 名
	輪島市門前地区浦上公民館	28 名

■被災者の声（主なもの）

- ・今年は固定資産税の徴収月が例年と異なり、未納に気を付けている
- ・ウォーキングをしていたが、散歩道が崩れてしまい、また国道も交通量が多いのでできないでいる。今日はサロン参加のあと皆で歩く予定
- ・眠れなくて、睡眠薬をもらっても眠れなかった、今は薬を飲んでいないけど眠れない。
- ・洪水の時怖かったから外を見なかった。3～5 号棟が大変なことになっていたのに気が付かなかった。
- ・水害で仮設に来てみたら、知っている人がいて、みんなから声をかけてもらえて嬉しかった。
- ・大きな地域はメディアで浦上みたいところは取り上げられなくて、気持ちを伝えるところがない。
- ・「門前に帰る」と言ったら、子どもから何があっても知らないからと言われた。それでも生まれ育ったところはいい
- ・仮設住宅での隣の生活音や、雨だれをバケツで受ける音で寝られない
- ・自分たちでこういう場をしていかなければいけないのは分かってるんだけど、できるなら長く来てほしい。
- ・疲れと不安があって、すごくこの場所が楽しみ。みんなで何か一緒にできるものがあるともっと楽しいかも。

■ボランティアの所感（主なもの）

- ・仮設住宅で近所の人たちと近いので当面は良いが、今後不安という声もあった。サロンの意義を感じた。終の棲家を探す不安感を感じているようだった。今は厳しい時期だと思うので、地域の人たちと交流できる時間が貴重と感じた。
- ・地元で活動するような団体がサロンの主体になっていて、外部団体がサポートする（手を引くことができる）ような形を作っていくことがとても大事なんだと感じた。

